

第124回 北海道整形外科外傷研究会

平成23年8月27日(土) 札幌教育文化会館

出席者 45名

第5回 北海道整形外科外傷研究会教育研修セミナー

平成23年8月28日(日) 札幌教育文化会館

出席者 22名

主題：末梢神経損傷

会長 札幌医科大学附属病院 高度救命救急センター 整形外科 入船 秀仁

第124回本会は、若輩者ながら、私が担当させていただくこととなり、8月28日に本会、翌日の29日に教育研修セミナーという日程となりました。

今回、主題を選ぶにあたり、個人的に日々の診療で悩むことの多い「末梢神経損傷」とさせていただきます。演題集めに幾分難渋しましたが、結果的には本会員皆様のご尽力により、一般演題1題、症例検討1題、主題6題と、合計8演題で開催することとなりました。この場をお借りして発表者の皆様に深謝いたします。

さて、本会は近年の研究会の乱立も相まって、出席者数の確保が危ぶまれましたが、何とか出席者数も当初の予想よりも多数の参加者があり、密かに胸をなで下ろしていました。研究会の方は、主題が「末梢神経損傷」ということもあり、上肢、特に手外科領域の演題ばかりとなっておりますが、活発な質疑応答がなされ、特に後半の2演題の上腕骨髄内釘による神経損傷症例の報告は個人的に衝撃的なものであり、いつ遭遇するやもしれないものとして、深く記憶にとどめるものとなりました。また、個人的には、本会を長年サポートしていただいている大日本住友製薬の協力を得て行った研究結果を報告させていただけたことをこの場を借りて深謝いたします。

続く教育研修講演は、日本を代表する手外科・マイクロ医であり、腕神経叢麻痺の再建に関しては世界の第一人者であります小郡第一病院の土井一輝先生をお招きし、「外傷性腕神経叢損傷の診断・治療アルゴリズム」と題してご講演いただきました。腕神経叢麻痺の初期診断から損傷レベルに応じた治療戦略に加え、究極のマイクロ再建である **double muscle transfer** に至るまでご講演いただき、大変勉強になりました。このような地方会に遠方から大変お忙しい中お越しいただき、心より感謝いたします。

翌日曜日には、第5回教育研修セミナーとして、「上肢関節内骨折」のテーマをもとに、北海道内のエキスパートの先生3名にご講演を依頼いたしました。函館五稜郭病院の佐藤攻先生には「肘関節内骨折」、市立函館病院の中島菊雄先生には「手関節内骨折」、整形外科北新病院の末永直樹先生には「肩関節内骨折」のご講演をしていただきました。二日目は幾分少人数となったこともありますが、いずれの先生方も、多数の自験例を交えた講義内容で、フロアとの活発な質疑応答がなされ、大変勉強になる、有意義な会となりました。3名の先生、大変お忙しい中、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

最後に、この会が、北海道の整形外科外傷治療の上で有益なものであり続けますよう微力ながら貢献していければと考えております。司会進行にあたり、何かと不手際がありましたことをこの場を借りてお詫びいたしますと共に、本会を開催するにあたり、ご協力いただいた、諸先生方、並びに協賛いただいた大日本住友製薬の皆様にご心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

ほっと ぷらざ

手関節軸写像

橈骨遠位端骨折に対して、掌側ロッキングプレートがスタンダードな治療法となりましたが、遠位骨片に対してスクリーないしピンの長さが適切かどうかの評価は、側面像や斜位像では限界があると思います。

膝関節の軸写像のように、手関節掌屈位で、遠位方向から近位方向を透視すれば、刺入されたスクリーないしピンの長が一辺にチェックできます。



札幌東徳洲会病院 整形外科 畑 中 渉